

この度は、日本計画行政学会「第 19 回計画賞」で最優秀賞をいただき大変光栄に思っています。

東日本大地震が発生した翌年、内閣府中央防災会議は「もはや想定外は許されない」という考え方のもとに「南海トラフ巨大地震の新想定」を公表しました。

その結果、黒潮町には「最大震度 7、最大津波高 34.4m、高知県に津波が最短 2 分で到達する」という日本一厳しい想定が突きつけられました。今回の計画賞では、このとてつもなく困難な課題への取り組みを報告させていただきました。

「34.4m ショックから防災地域づくりの先進地へ -黒潮町の挑戦-」というタイトルで、「対策ではなく思想から入る防災」という少し変わった切り口で選考会に望みました。「はたして、専門家の皆様にご理解いただけるだろうか・・・」という不安の中でプレゼンをさせていただきました。

その結果、全国数々の先進的な取り組みの中で最高の評価をいただき、「黒潮町の 10 年間にわたる防災の取り組みは間違っていなかった」という確信を持ってました。

本来であるならば、直接会場で様々なご意見をいただきましたかったところですが、コロナ禍の中で叶わず、その点では残念でしたが、この受賞を励みとしながら一層の精進を図ってまいります。ありがとうございます。